

【東京国立近代美術館工芸館】

栗木達介展－現代陶芸の鬼才

2015年10月8日(木)～12月13日(日)

◆イベント情報更新しました。(8/31)

◆やきものの形態と装飾の一体性などの造形表現を追求し続けた栗木達介（1943-2013）。その制作を通じて、現代陶芸の本質を探ります。

◆《しろとぎんの作品》《這行する輪態》他、日展など公募展での受賞作をはじめ、代表作を中心に約90点の作品をご紹介します。栗木達介の作品を一堂に展観する初めての展覧会です。

◆「人間国宝・巨匠コーナー」

会場の一部では、工芸館が所蔵する作品の中から、富本憲吉や清水裕詞など、栗木達介が師事した作家や、活動の中で親交のあった作家の特集展示をおこないます。

◆11月3日(火・祝)文化の日は、**無料観覧日!**



広報用図版①

報道関係の方の
お問合せ先

東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/諸山・唐澤 広報担当/高橋

※工芸館広報のアドレスが新しくなりました。

Tel: 03-3211-7781 (工芸課直通)

E-mail: kogei-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

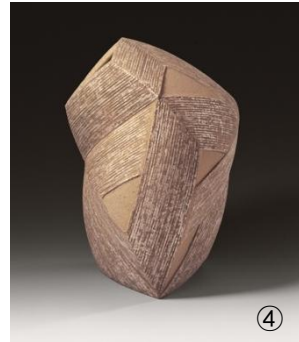
<http://www.momat.go.jp>

栗木達介（1943-2013）は、愛知県瀬戸市の陶家に生まれ、京都市立美術大学で富本憲吉や近藤悠三、藤本能道、清水裕詞に学びました。1966年卒業した後に瀬戸で作陶活動を始め、オブジェや創作を謳う現代陶芸が昂揚するなか、朝日陶芸展や日本現代工芸美術展、日展等で大賞の受賞を重ねて一躍台頭し、次代を担う陶芸家として注目を集めました。

1983年からは母校の京都市立芸術大学で教鞭をとりました。既成の伝統や常識にとらわれず、主に手びねりの“オブジェ陶”で土の特性ややきもののかたちを追求し、《しろとぎんの作品》（1974年）や《這行する輪態》（1976年）などの“動くかたち”に力量と存在感のある大胆な造形を表しました。

1980年以降は、陶の概念を再認識して器のかたちと装飾とを一体的にして新たな形態による自らの造形を創作し、「銀緑彩文陶」や「銀紅彩地紋陶」、「巻弁陶」、「形を離れる帯模様」、「組帯壺」などのダイナミックな造形を創造して陶芸界に異彩を放ちました。

本展は、初期の器物を含め、代表的なオブジェ作品、そして後年の伝統の器とオブジェの狭間に在る独創的な陶芸を追求した重要な作品約90点を厳選して構成します。自らの思想に徹した造形を追求し、現代の陶芸に対して問い続けた本質とその美を明らかにして、栗木達介の創作の世界を展覧いたします。



栗木達介 略歴

1943	愛知県瀬戸市に生まれる。
1962	京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）美術学部工芸科陶磁器専攻入学。 富本憲吉、清水裕詞らに学ぶ。
1966	同大学卒業。瀬戸に帰郷し、作陶活動に入る。
1969	第7回朝日陶芸展、朝日陶芸賞受賞（以後、第9回同賞、第15回同大賞受賞）
1974	第13回日本現代工芸美術展、大賞受賞（以後、受賞を重ねる）
1976	瀬戸市山口にて築窯、独立。
1977	第9回日展特選受賞（84年、第16回で特選受賞）
1978	日本陶磁協会賞受賞
1980	「CLAY WORK—やきものから造型へ」展招待出品 （滋賀・西武大津/東京・西武池袋）
1983	京都市立芸術大学美術学部専任講師に就任。京都に転居する。 以後、86年助教授、93年教授、07年退官・名誉教授
1996	個展「国際陶芸アカデミー日本会議'93協賛 作陶30年栗木達介展」開催 （名古屋・松坂屋）
2000	第12回MOA岡田茂吉賞工芸部門大賞受賞
2013	死去

展覧会概要

展覧会名	(日本語) 栗木達介展—現代陶芸の鬼才 (英語) Kuriki Tatsusuke
会期	2015年10月8日(木)～12月13日(日)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(10月12日、11月23日は開館)、10月13日(火)、11月24日(火)
主催	東京国立近代美術館、京都国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館工芸館
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
観覧料	一般700円(450円) 大学生400円(200円) 高校生以下及び18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。 *()内は20名以上の団体料金。およびキャンパスメンバーズ特典料金。いずれも消費税込。 *割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、障害者手帳をご提示ください。 無料観覧日：11月3日(火・祝)文化の日
イベント情報	いずれも14:00～、工芸館会場にて。申込不要・参加無料(要観覧券) ◆ギャラリートーク 10月11日(日) 諸山正則(工芸課主任研究員) 11月8日(日) 松原龍一(京都国立近代美術館学芸課長) ◆アーティスト・トーク 10月25日(日) 「現代陶芸を語る」久世建二(陶芸家)×諸山正則 ◆タッチ&トーク 会期中毎週水・土曜 当館ボランティアスタッフによるガイドプログラム。 〈さわってみようコーナー〉と会場トークで展覧会の魅力をご紹介します。
掲載用お問い合わせ先	Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
公式HP	http://www.momat.go.jp

10月7日(水) 記者発表会・記者内見会を行います。

参加ご希望の方はメール等でお問合せください。

工芸館広報(kogei-pr@momat.go.jp)

13:30～受付

13:30～15:00記者内見会

14:15～14:50記者発表会

広報用図版⑨



工芸館について

東京国立近代美術館工芸館では、近代美術の中でも工芸とデザインの作品を専門に、明治期以降の国内外の秀作約3,400点以上を所蔵し、展示をおこなっています。

「旧近衛師団司令部庁舎」を保存活用した築約100年の赤レンガの建物は、明治洋風レンガ造り建築の一典型として、重要文化財に指定されています。

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当 行 発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	
	1	しゃこう りんたい 《這行する輪態》 1976年 東京国立近代美術館蔵
	2	《しろとぎんの作品II》 1974年 敦井美術館蔵
	3	ぎんりよくさいもんとう こたい 《銀緑彩文陶 壺態I》 1988年 個人蔵
	4	そたいこ ほうし 《組帯壺VI 法師》 1996年 個人蔵
	5	おびもよう 《形を離れる帯模様II》 1996年 個人蔵
	6	《あおい作品》 1969年 京都国立近代美術館蔵
	7	おうりんもんけんべんかき 《黄鱗文巻弁花器》 1991年 個人蔵
	8	ぎんこうさいじもんとう 《銀紅彩地紋陶 まがり》 1984年 東京国立近代美術館蔵
	9	ぎんさいとうたく 《螺旋空間のモニュメント 銀彩陶鐸》 1982年 新生紙パルプ商事株式会社蔵
		(工芸館外観)

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXでお送りください。
- ・作品図版はJPEGデータをご用意しています。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

ご担当者名： _____ E-mail： _____

貴社名： _____

出版物・放送番組・ウェブサイト名： _____
URL (http://www _____)

掲載予定号・発行日/放送・公開日時等： _____

電話番号： (_____) Fax: (_____)

* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意いたします。

希望しない/希望する (_____ 組 _____ 枚)

〒

チケット送付先： _____

【報道関係の方からの本資料に関するお問い合わせ先】
東京国立近代美術館工芸館 広報担当/高橋 TEL:03-3211-7781 (工芸課直通)
E-mail: koge-pr@momat.go.jp HP: http://www.momat.go.jp

※工芸館広報のアドレスが新しくなりました。